

## ジゴキシン使用と死亡との関連は認められず

ジゴキシンは、心不全患者の症状軽減や心房細動患者の心拍数コントロールに用いられるが、最近の観察研究において、死亡増大との関連性が指摘されている。本研究では、全ての観察研究およびランダム化試験を対象に研究デザインや方法を考慮した上で、ジゴキシンの死亡および臨床アウトカムへの影響を明らかにするため、系統的レビューおよびメタ分析を行った。

Medline、Embase、Cochrane Library、参照リスト、そして現在進行中の前向き試験を検索し、1960年～2014年7月までに発表されたジゴキシンと対照を比較検討した52試験、被験者621,845例が抽出された。ジゴキシン使用者は、対照よりも年齢が2.4歳高く、駆出率が低く（33%対42%）、糖尿病のある者が多く、利尿薬と抗不整脈薬の服用者が多かった。メタ分析には、75件の解析試験のデータが組み込まれた。その結果、対照と比べジゴキシンの死亡リスク比は未補正解析試験では1.76、補正後解析試験では1.61、傾向適合試験では1.18、ランダム化対照試験では0.99であった。メタ回帰分析では、ジゴキシンと関連した死亡への有意な影響は、心不全重症度のマーカーとなる利尿薬使用（ $p=0.004$ ）など、試験開始時の治療群間の差によるものであることが確認された。試験の実施方法が良好でバイアスリスクが低い試験では、ジゴキシンと死亡との関連は中立的であると報告している傾向が有意にみられた（ $p<0.001$ ）。全試験にわたり、ジゴキシンはわずかではあるが、あらゆる原因による入院の減少と有意に関連していた（リスク比0.92、 $p<0.001$ ； $n=29,525$ ）。

したがって、ジゴキシンはランダム化試験において死亡との関連は中立的で、また、全タイプの試験において入院の減少と関連していた。観察試験において認められたジゴキシンと有害転帰との関連は、ジゴキシン処方によるものではなく、統計的補正によっても取り除けない交絡因子によるものと考えられる。

出典：British Medical Journal. 2015; 351: h4451